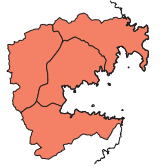


## 悲しみに寄り添いながら



▲2011（平成23）年5月11日「南三陸の海に思いを届けよう」という集会在志津川中学校で行われた。支援活動を行っていたNPOの呼びかけで、中学生や住民たちと共に自衛隊員たちも静かに海に向き合った。

撮影 福田沙織

震災直後の南三陸町でいち早く行方不明者捜索と道路復旧などに当たった自衛隊は、作業を開始する際には必ず犠牲者に黙祷を捧げた。

多くの住民は、かけがえのない人たちと家や職場をこの震災で失った。しかし、その現実に向き合うのには長い時間を要した。2011（平成23）年5月11日、NPOの呼びかけで「南三陸の海に思いを届けよう」という集会が開かれた。その頃は、「追悼」という言葉を使うことさえ、はばかられていた。音楽家の奏でる曲を聞きながら、それぞれが黙して海に向き合う時間が作られた。それまで気丈に避難所運営や炊き出しなどに従事してきた住民たちも初めて静かに涙を流した。

志津川中学校の校庭に駐留していた西部方面隊の隊員たちも静かにその列に加わってくれた。住民たちの悲しみに心を寄せ悼む場を共にしてくれる自衛隊員たちの優しさと誠意に、筆舌に尽くしがたいほど大きな力を私たちはもらった。